

研究課題名	組織切片の長期保存における抗原性の変化
研究責任者	五十嵐久喜
研究機関名	浜松医科大学腫瘍病理学講座
研究目的と意義	<p>組織切片の長期保存は抗原性の低下を招くといった報告があるが、要因についての検証は十分でなく、そのデータも報告された施設ごとに大きく異なっている。われわれは、組織切片の保存期間による抗原性の変化は、切片の保存環境のみではなく標本作製工程にも起因しているのではないかと考えた。そこで、より多くの施設で作製された組織標本を同じ条件下で保存し、抗原性の変化を比較検討することで、これまで推測の域を出ることのなかった原因解明につながるのではないかと考えた。</p>
研究期間	西暦 27年 11月（倫理委員会承認後） ～ 32年 10月
研究方法	<p>● 対象となる患者さん： 1982年4月～2015年8月に手術を施行し、病理検体を採取した検体</p> <p>● 研究に使用する試料： (1)乳がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (2)肺がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (3)胃がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (4)肝がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (5)膵がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (6)大腸がんおよび周辺組織 10例 10 block 程度 (7)非腫瘍性疾患「(1)-(6)」 10例 10 block 程度</p> <p>● 研究方法 それぞれの施設のパラフィンブロック（乳癌・肺癌・胃癌）を各2症例以上提供してもらい、2mm径の組織アレイブロック（TMA）を作製する（くり抜いた組織ブロックは返却）。既存検体を連結不可能匿名化して用いる。 次に、当方で作製したTMA薄切切片を各施設に配布し、ある一定期間（6ヶ月・1年間・それ以上）、4℃と常温にて保存してもらう。 一定期間にあわせ、あらためて薄切した切片を送り、保存してある切片と同時に下記の抗体にて免疫染色を行ってもらい比較検討する。 乳癌：EGFR, HER2, ER 肺癌：p53, TTF1, Ki-67 胃癌：β-catenin, E-cadherin, KIT</p>